

景観調和建築物研究グループ第3班

有効活用

提案・配置図

- ・部分の特徴
→ アプローチでは
ぶどう棚とレンガ（かつて勝沼町
山地区や塩山西野原地区にて生産）
- ・生垣には近隣住宅と揃えサザンカ



例：アプローチにブドウ棚

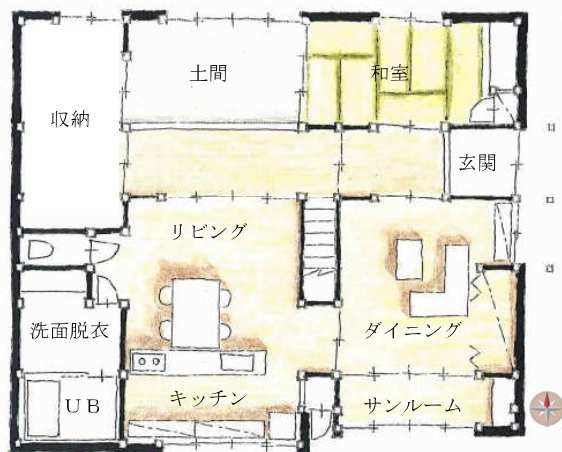


例：アプローチにレンガ

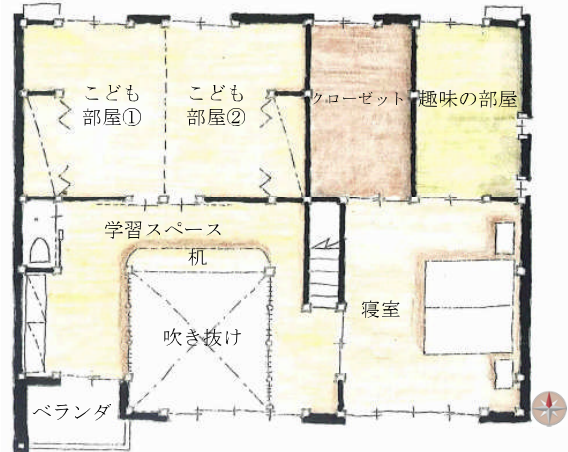


提案・平面図

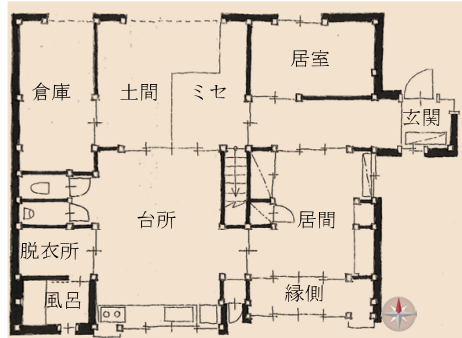
After (1F)



After (2F)



Before (1F)



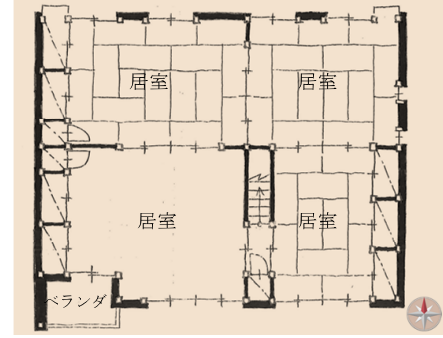
趣味の部屋からの風景



学習スペースからの風景



Before (2F)



- ・現在の間取りを生かし動線の考慮して改修
- ・宿場町を意識し、開(ひら)けた土間は
コミュニティースペースへ
子供が友達と、親が地域の人達との様々な
交流が生まれる有効な空間

- ・特徴的風景 → ブドウ畑と扇状地、鳥居平
学習スペースと趣味室から望めるように工夫
- ・昔の間取りの特徴は「和室」
隣接させ、可変性をもたし
構造がシンプルなため間取りの改修が容易

まとめ

1. 部分的な改修でも、町並み再生の手がかりになる
2. その地域の特徴を探ることが古民家再生と町並み再生に繋がる一つの方法となる
3. 住宅の中から見える山並みや果樹園風景を抽出することにより、間取りも導き出せる
4. 外構も特徴を取り入れることで、更に町並みに統一感を与える